



**Vol.154**

令和5年度4月号

伊豆沼で野火(野焼き)が行われました。

3月4日(土)に伊豆沼漁協、伊豆沼土地改良区、新田北部土地改良区および財団による伊豆沼の2工区、3工区堤防野火(野焼き)を行いました。

野火(野焼き)には、ヨシ原など草原の遷移を防ぐ効果があります。また、枯れ草の焼却により、地表まで日が差すようになり、イヌヌマトラノオやチョウジソウなどの希少種の生育を助けます。さらに、害虫駆除の効果や新しいヨシの発芽を促すなどの効果もあるようです。

近年では、ヨシ原の経済的価値の低下や野焼きの担い手不足などにより、野焼きの停止や管理放棄が目立つようになっていきます。ヨシ原などに住む生き物を次の世代に引き継いでいくためにも、野焼きなどの管理を維持する必要があります。



2工区野火後



3工区野火後



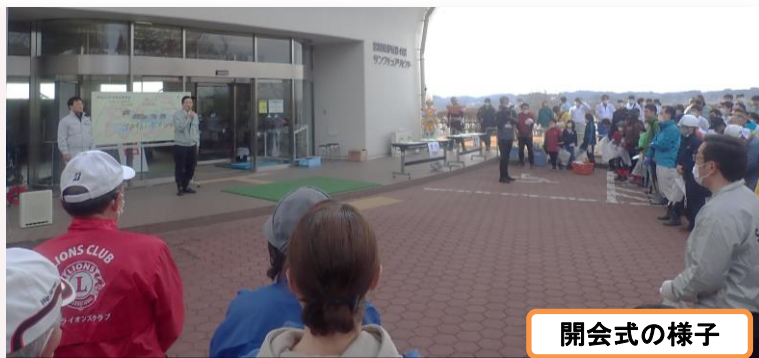
イヌヌマトラノオ



チョウジソウ

# 第61回 伊豆沼・内沼クリーンキャンペーンが4年ぶりに開催

3月21日(春分の日)に4年ぶりの伊豆沼・内沼クリーンキャンペーンが開催されました。新型コロナウイルスの拡大や福島県沖地震などの影響で開催出来ない年が続きましたが、今年度は、地元企業などから総勢625名の方が参加しました。3会場(鳥館、昆虫館、淡水魚館)のサンクチュアリセンターに集合した参加者は、約2時間の活動で約530kgのゴミを拾い集めました。



開会式の様子



集まったゴミの分別作業



回収されたタイヤ



## ガンカモ類の北帰行



伊豆沼の高空を南から北へ渡るカモ類の群れ

ガンカモ類の北帰行には寒さが大きく影響します。暖かく、積雪の少ない年ほど北帰行が早まり、逆に寒波が続くと渡りが遅れます。今年の北帰行をみると、例年通り、2月上旬から始まりましたが、2月中旬の寒さによって渡りのペースが遅くなりました。その後、2月24日以降の気温上昇によって北帰行が一気にすすみました。3月上旬の県のガンカモ類生息調査の結果を昨年と比較すると、昨年36,410羽に対して、今年は14,078羽でした。昨年は寒波による寒さが続いたため、北帰行が遅れたと考えられています。ガンカモ類は3月中旬現在、秋田県北部や青森県の平野部を中心に滞在しています。伊豆沼でGPSを装着したオナガガモの中には北海道まで到達したものもいます。春が進むにつれて、彼らはどんどん北上していきます。

